

ま な び や

掛図の飛行機は実在した

全国の小学生の募金で献納「愛國31児童」号

掛図は教科書の内容をより具体的にわかりやすく説明するために使われていました。第四期国定教科書の小学国語読本「ヒカウキ」の文章の上の挿絵と掛図を比べてみると、掛図には飛行機の機体に「愛國31」と書かれています。

この飛行機は実在しました。昭和6年の満州事変後、全国の小学生からの募金が集められ、昭和7年に陸軍に献納され、「31児童」号と名付けられた機体です。ちなみに福井県民が献納した機体名は「14若越」号、ほかに「23中学生」号、「30女学生」号という名前の機体もありました。（『陸軍愛国号献納機調査報告』横川裕一著（参照））

軍に個人や団体が武器を献納することを当時の新聞社が美談として大きく取り上げ、全国で盛んに行われるようになったことがうかがえます。一枚の掛図からいろいろなことが見えてきます。開館10年記念企画展で十分にご覧ください。



小学国語読本 1933(昭和8)年



小学国語読本掛図第一学年前期第一編 1933(昭和8)年

開館10年記念企画展「子どもの学びを支えた掛図」7月11日(土)～10月25日(日)

なりました。学校ではそれぞ

れのお小遣いの中から1銭・

5銭(今の十円～百円程度)の

少額募金を行いました。少額

とはいえ、世界恐慌からやつ

と立ち直った頃で、家庭によ

つてはかなり厳しかったよう

です。昭和8年に作られた掛

図の中の一枚ですが、当時の

状況を考えると教育の現場に

戦争の現実が影を落としてい

たことがうかがえます。

一枚の掛図からいろいろな

ことが見えてきます。開館10

年記念企画展で十分にご覧く

お母さんは力持ち？

赤ちゃんの体重を竿ばかりで計量



新編社会科掛図3上 1957(昭和32)年

右の掛図は昭和32年刊行の「新編社会科掛図3上」の中の一枚です。「改訂きょうりよくする社会 三年上」の「ほけんじよと村の生活」という教科書と関連しています。

縁側で家庭訪問に来た保健婦さん(今は保健師)が記録用紙を手にし、お母さんが赤ちゃんを風呂敷にくるみ、竿ばかりで体重を量っている微笑ましい光景が描かれています。

絵を見ると片手で赤ちゃんを軽々と持ち上げているように「ホントにやっていた

の？」と思いますが、保健師さんのお話では実際に平成の初めごろまで行われていたそうです。

絵の中央にはおんぶ帯で弟か妹を背負って笑っている女の子、お姉ちゃんでしょうか。その上の乳児への予防接種の絵でも、お医者さんに注射されそうな赤ちゃんを不安げに見つめる二人の兄妹が描かれています。

新しい生命を、みんなで守り、慈しむ温かさが伝わる絵です。実物の教科書も併せて展示しています。ご覧ください。